

第3節 社会的環境

1. 地勢・人口

島原半島は、長崎県の南東に位置する半島である。半島内は島原市、雲仙市、南島原市の3市で構成されており、面積の割合は、島原市17.7%、雲仙市45.9%、南島原市36.4%である。

令和2年(2020)国勢調査では、島原半島内の人口(3市合計)は、12万7千人と昭和22年(1947)をピークに減少を続けており、65歳以上の高齢者人口の割合が37.4%を占める。この割合は県全体(33.0%)よりも高い。また、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(平成30年3月公表)によると、令和27年(2045)の推計人口は、令和2年(2020)の人口と比較すると4万6千人以上(36.4%)減少することが予測されている(表2-3-1・2)。

表2-3-1 島原半島人口・世帯推移(国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所)

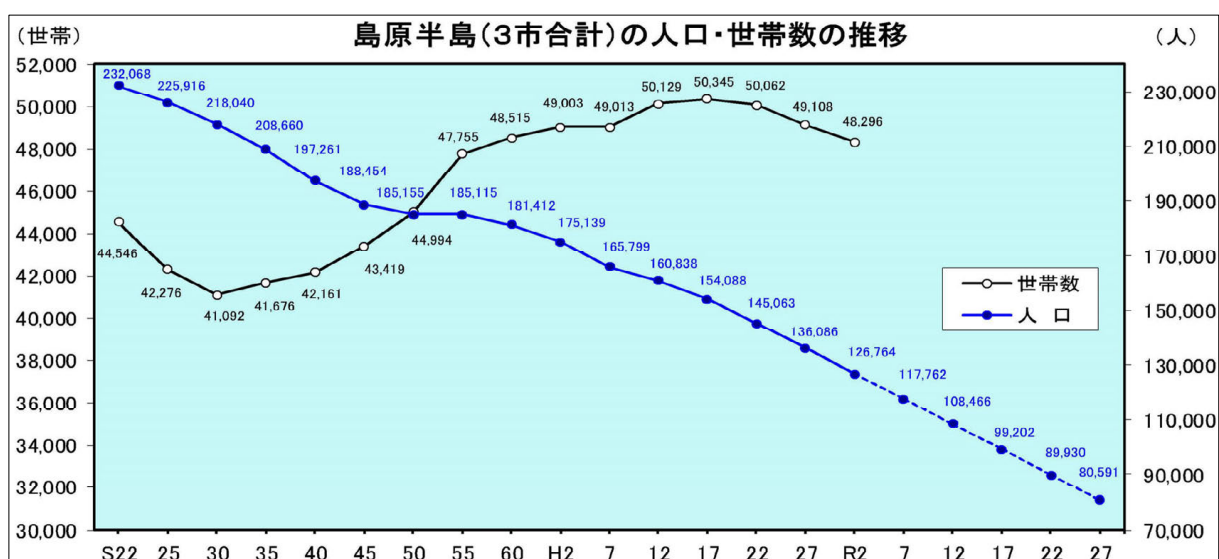
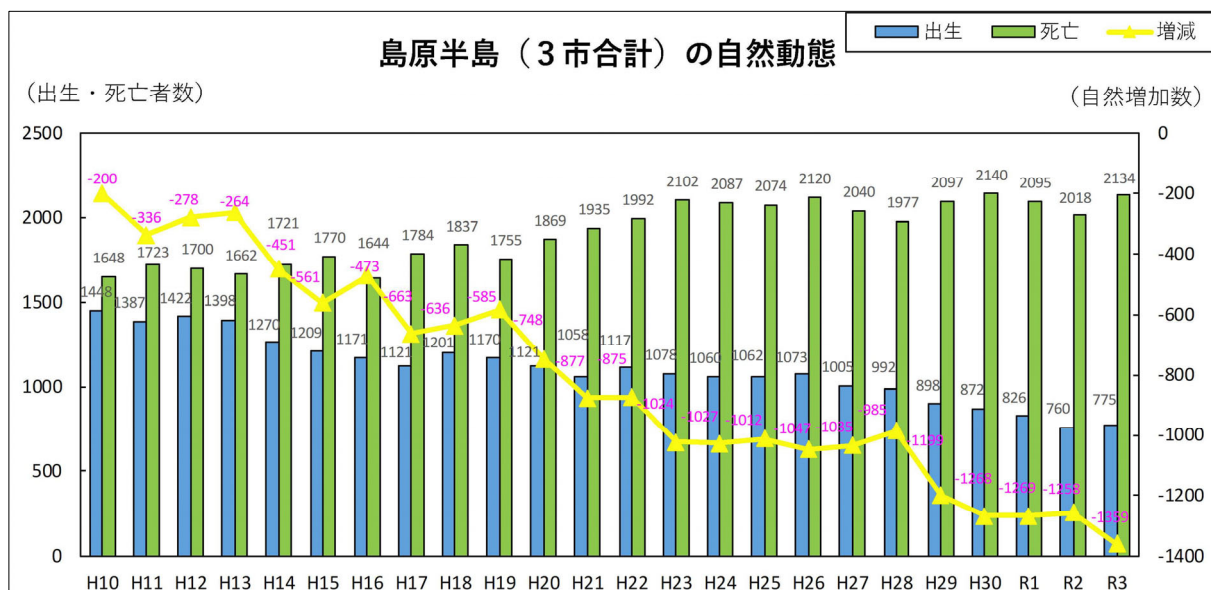


表2-3-2 島原半島人口・世帯推移(2021年長崎県異動人口調査年間集計結果報告)



2. 産業

島原半島の産業構造は、県全体と同様に第三次産業（主にサービス業）が最も高く（73.6%）、次いで第一次産業（主に農林水産業）、第二次産業（主に製造業）が続く（表 2-3-3）。

なお、島原半島の1人当たりの経済規模は県平均を下回るが、第一次産業の総生産額の割合は県全体の4倍である。

島原半島を代表する産業として農業が挙げられる。耕地面積は県平均の2倍以上であり、農業経営体が県平均の3分の2であることに加え、農業産出額は県全体の約半分を占める。主な農作物として、ばれいしょ、だいこん、にんじん、レタス、いちご、トマトなどの野菜が挙げられるほか、乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、肉用鶏などの畜産が盛んである。また、島原半島は、菌床しいたけの栽培も盛んであり、全国有数の産地である。令和2年（2020）の生産量は1,817トン（生：1,797・乾：20）で、県内生産量の65%を占めている（写真 2-3-1・2）。

なお、地場産業として、南島原市の西有家町および有家町を中心とした素麺製造業が知られており、近年は首都圏でのPRイベントや海外での商談会を開催するなど、さらなる消費拡大への取り組みが行われている。

表 2-3-3 産業別就業人口・経済活動別総生産（「島原半島要覧 2022」島原振興局）

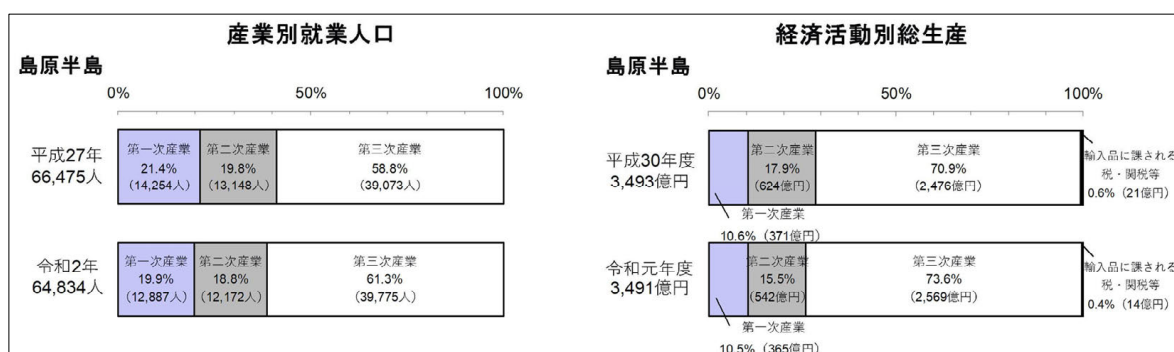


写真 2-3-1 畑地帯の整備（雲仙市岡南部地区）



写真 2-3-2 菌床しいたけ

3. 交通

島原半島における主要な公共交通機関は、鉄道、バス、海上交通である。鉄道は島原鉄道株式会社により「諫早駅～島原港駅間（43.2km）」で運行されている。なお、平成19年（2007）の一部路線廃止（島原外港駅～加津佐駅間）に伴い、存続する路線との連絡や通学等に配慮した代替バスが運行されている。路線バスは、島鉄バスが運行しているが、島原市内路線（6路線18系統）は令和3年（2021）10月1日をもって廃止され、コミュニティバスにより代替されている。また、海上交通は、島原港～熊本新港、多比良港～長洲港、口之津港～鬼池港、島原港～三池港の4つの航路において、フェリー・高速船が運航されている（図2-3-2）。

島原半島の道路は、国道57号、国道251号、国道389号の3本の国道と、主要地方道3路線、一般県道15路線の計18路線で構成されている。国道251号は、長崎と諫早を結ぶ主要幹線道路で、島原半島の東側を外周しており、国道389号は、大牟田と鹿児島を結ぶ主要幹線道路で、島原半島の南北を縦貫している。県道は、半島中心部の雲仙から海岸部に向かって放射状に広がる（図2-3-3）。

また、島原半島と九州横断道を結ぶ延長約50kmの高規格道路「島原道路」が整備中であり、令和4年（2022）現在、「出平有明バイパス（3.4km）」、「瑞穂吾妻バイパス（6.4km）」、「有明瑞穂バイパス（10.4km）」の3工区が事業中である（図2-3-1）。

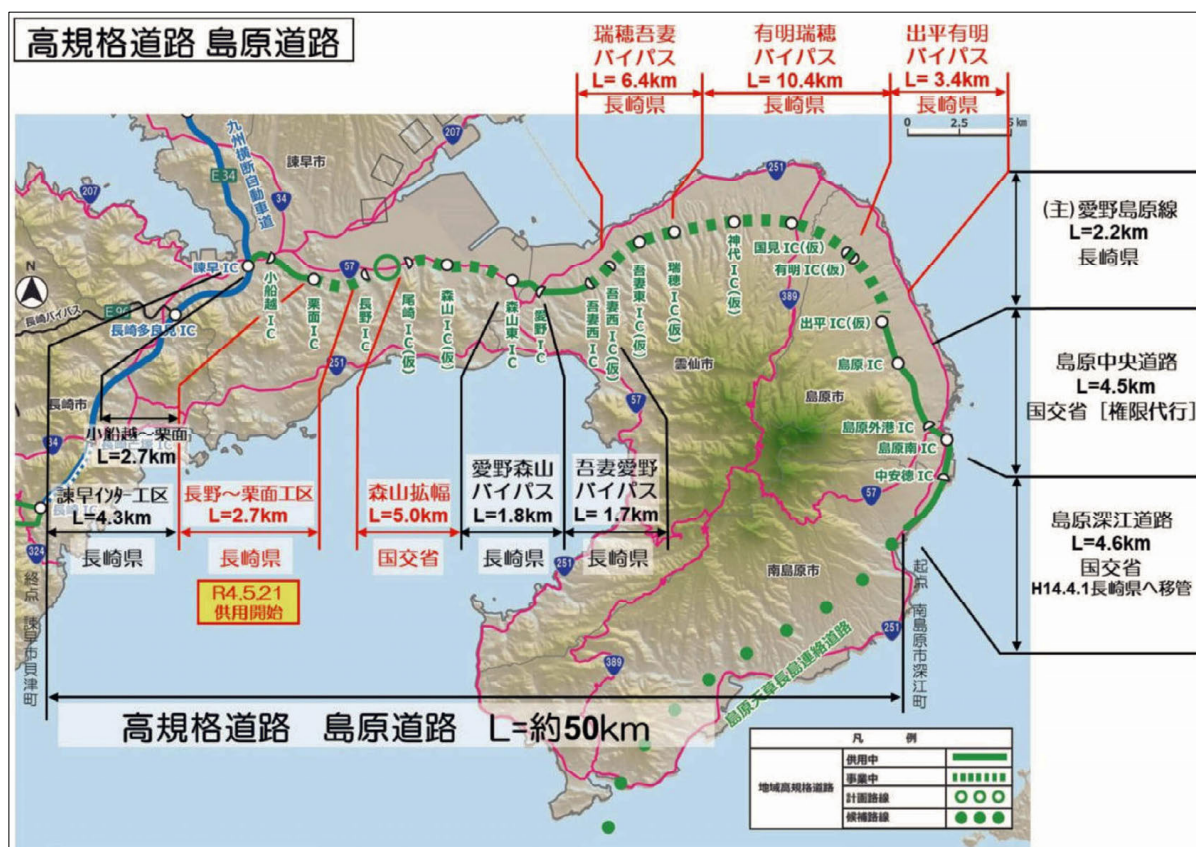


図2-3-1 島原道路計画図（「島原半島要覧2022」島原振興局）



図 2-3-2 島原半島アクセス図（昭文社 スーパーマップルデジタル 17 使用）

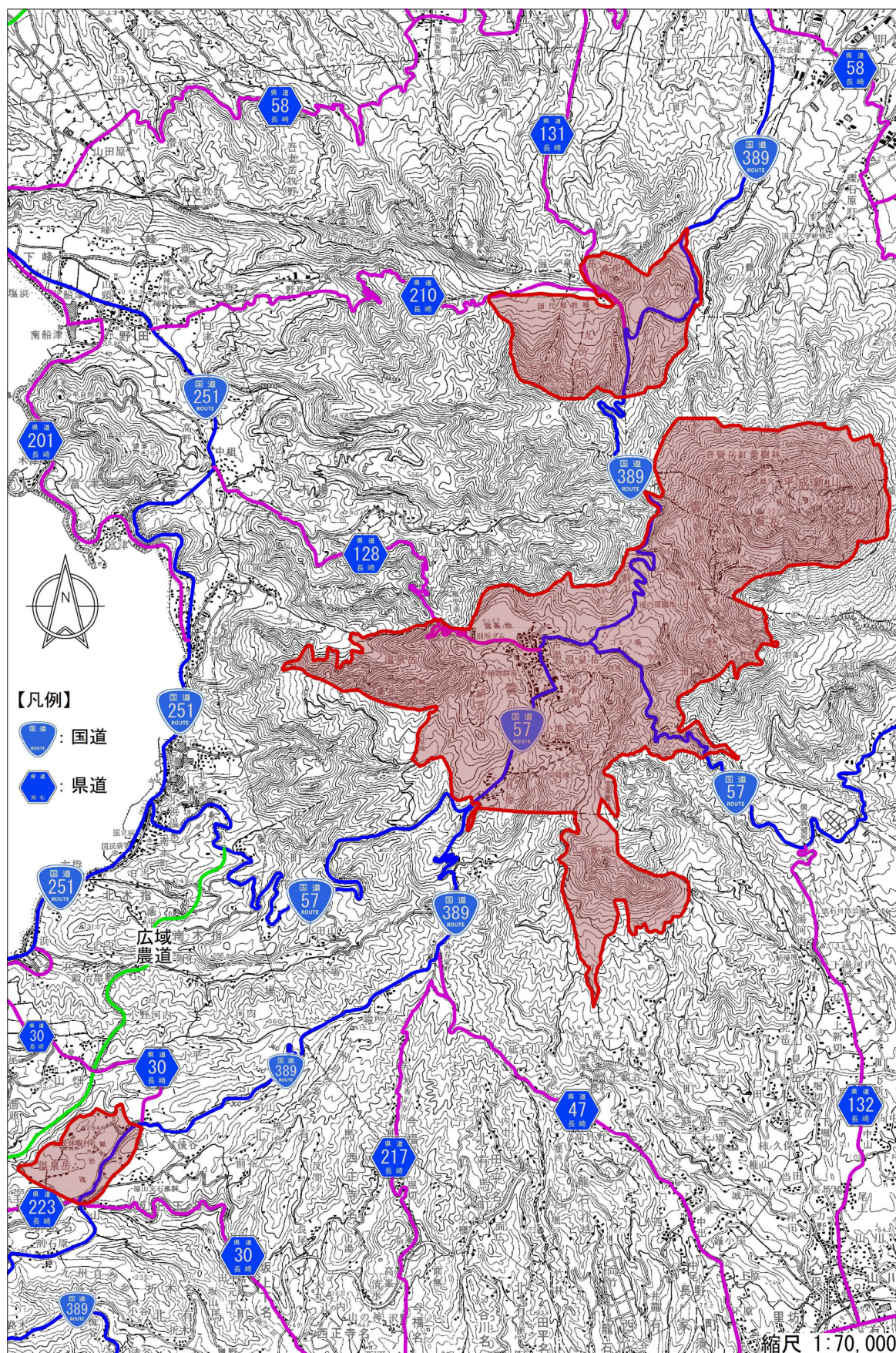


图 2-3-3 主要道路图

4. 観光

(1) 観光

島原半島には、日本で最初に国立公園に指定された「雲仙天草国立公園」および「島原半島県立公園」のほか、雲仙温泉・小浜温泉・島原温泉に加え、平成30年（2018）7月に世界文化遺産に登録された原城跡をはじめとした「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」、世界ジオパーク、島原城など豊かな自然、文化、歴史を背景とした観光資源が数多く存在する（図2-3-4）。また、豊富な農林水産物を活用した食や特産品などにも恵まれるほか、熊本県および福岡県と4つの航路で繋がる長崎県の海の玄関口として、多くの観光客が訪れる県内有数の観光地である。

また、特別名勝温泉岳の中でも、豊かな自然を生かした様々なイベントが開催されている（表2-3-4）。通年で行われている「ノルディックウォーク体験」では、指導員の案内を聞きながら、一般には知られていないルートを通して温泉街を散策できるほか、ライトアップのない地獄を提灯の明かりのみで巡る「湯にも地獄の物語」では、昼間とは異なる音に耳を傾けつつ雲仙の自然を体感することができる。同じく夜に行われる「雲仙仁田峠プレミアムナイト」は、原則夜間通行止めである仁田峠を体感できるバスツアーである。令和2年（2020）からは、秋季に紅葉を楽しみながら島原半島の豊かな食と温泉を体験できる「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」が開催されているほか、冬の温泉街では雲仙岳の霧氷をモチーフにしたイルミネーションイベント「雲仙灯りの花ぼうろ」が開催されている。また、諏訪池においては、雲仙諏訪の池ビジターセンターが定期的に「星空観察会」を開催しているほか、ガイド付きの「諏訪の池散策」など自然に親しむ多種多様なイベントを開催している。なお、雲仙地獄および諏訪池における観光案内、情報発信については雲仙お山の情報館、雲仙諏訪の池ビジターセンターが大きな役割を果たしている。

温泉岳周辺で行われるイベントは「体験型」のものが大半を占めており、参加者は四季折々の自然の豊かさに触れることができるとともに、雲仙の魅力をより身近に感じることができる。

表 2-3-4 特別名勝温泉岳周辺の主なイベント一覧表

期日	イベント名	概要	場所
毎週日曜日・月曜日 ※雲仙温泉宿泊者限定	ノルディック・ウォーク体験	「全日本ノルディック・ウォーク連盟」公認の指導員と一緒に雲仙温泉街をノルディック・ウォークで散策する。	温泉街
通年（毎週土曜日ほか）	星空観察会	星空が見える大自然の中、九州で2番目の大きさの屈折式天体望遠鏡で季節の星座や天体を観察する。	諏訪池
不定期開催	諏訪の池散策	植物や昆虫をスタッフと一緒に探す自然観察イベント。	諏訪池
第2・第4土曜日 ※6月、12月、1月、2月を除く	湯にも地獄の物語	雲仙地獄で行われるナイトツアー。雲仙地獄にまつわるキリシタン秘話、罪深い話など摩訶不思議な話を聞くことができる。	温泉街
春季から秋季にかけて 日にち限定で開催	雲仙仁田峠プレミアムナイト	通常は夜間通行止めの仁田峠循環道を通り、仁田峠展望台へ向かうバスツアー。ロープウェイの夜間特別運行で、妙見岳展望台へも向かう。	温泉街から 仁田峠
秋季	ONSEN・ガストロノミーウォーキング in 雲仙	雲仙温泉を代表する紅葉スポットのウォーキング、島原半島や地元雲仙市産の食材を使ったフルコースメニュー、雲仙温泉入浴を楽しむイベント。	温泉街
2月頃	雲仙灯りの花ぼうろ	雲仙温泉街が霧氷をモチーフにしたイルミネーションでライトアップされるイベント。	温泉街

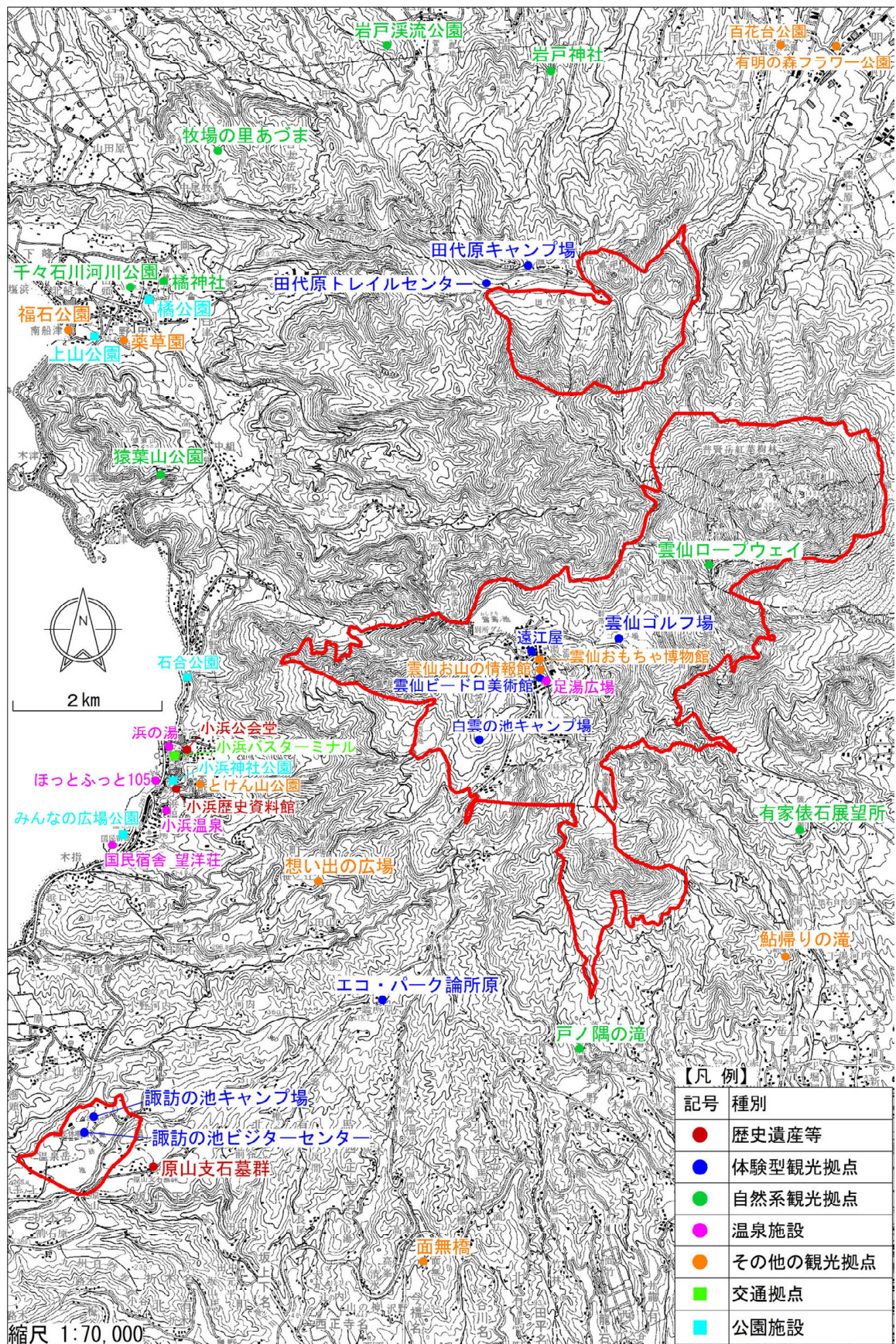


図 2-3-4 観光資源分布図

（２）自然公園・ジオパーク

島原半島は、「雲仙天草国立公園」および「島原半島県立公園」の２つの自然公園を有しており、２つの自然公園を合わせた面積は 14,693ha で、島原半島の約 32%を占めている。雲仙天草国立公園（雲仙地域）は昭和 9 年（1934）に日本で最初に指定された、雲仙岳の火山景観を主体とする国立公園である。県内外から多くの観光客が訪れており、ビジターセンター、キャンプ場、園地などが整備されている（写真 2-3-3、表 2-3-5）。島原半島県立公園は、変化に富んだ海岸線や国立公園の周辺部、史跡を中心に指定されており、100m 近く切り立った断崖の千々石断層、礫石原や百花台の火山性山麓扇状地等の特徴的な景観が見られる自然公園である。

また、島原半島は、平成 20 年（2008）12 月に「島原半島ジオパーク」として、第 1 号の日本ジオパークに認定され、平成 21 年（2009）8 月には国内第 1 号の世界ジオパークに認定されている。ジオパークは、科学的に見て特別に重要かつ貴重な自然遺産（地層、岩石、地形、火山、断層等）を含む一種の自然公園であり、それらを保全・活用し、地域の持続的発展につなげていくことを目的としたものである（表 2-3-6）。島原半島ジオパークは、ジオサイトの保全と活用、専門知識を有したガイドの設置、国内外ジオパークとの交流によるネットワークづくりなど、ジオパーク活動への取り組みが評価され、平成 25 年（2013）、平成 30 年（2018）、令和 4 年（2022）に世界ジオパークの再認定を受けている。



写真 2-3-3 平成新山ネイチャーセンター

表 2-3-5 雲仙天草国立公園（雲仙地区）内の主な自然公園利用施設

管理主体	施 設 名	概 要
環境省	雲仙お山の情報館	雲仙の自然、文化、歴史に関する情報の提供や温泉に関する展示を行っている。
	雲仙お山の情報館別館	主に雲仙の歴史関係の写真や解説パネルを展示している。
	雲仙諏訪の池 デジタルセンター	諏訪の池周辺の自然情報を提供している。また、屈折式の大型天体望遠鏡を使った天体観測ができる。
	平成新山 ネイチャーセンター	火山と共生する動植物の解説を行っている。屋外では火山活動からの自然の再生の様子が観察できる。
	雲仙温泉園地 (地獄周辺)	地獄内に整備された歩道から噴出する温泉や噴気を観察できる。
	白雲の池野営場	雲仙温泉街に近い、木立に囲まれたキャンプ場。
	普賢岳新登山道	有明海の大パノラマ、平成新山を間近に望むことができる。
長崎県	仁田峠園地	標高約1,100mで遊歩道や駐車場が整備されている。ミヤマキリシマ、紅葉等、四季折々の風景が素晴らしい。
	池の原園地	国指定天然記念物のミヤマキリシマ群落が広がる。遊歩道や休憩施設が整備されている。
	宝原園地	展望台から眺めるミヤマキリシマの花々が美しい。
	雲仙温泉園地 (原生沼周辺)	木道からミズゴケ湿原である原生沼を観察できる。
	絹笠山周回線歩道	サンセットヒルと呼ばれた絹笠山の山頂から温泉街を眺めることができる。
	田代原野営場	山々に囲まれたキャンプ場。梅雨期のヤマボウシが美しい。
	田代原トレイルセンター	田代原周辺の自然環境を紹介するとともに、九千部岳や吾妻岳等への登山の拠点として利用できる。
	九州自然歩道	南島原市の口之津港から佐世保市の栗ノ木峠までを結ぶ。雲仙地区は高岩山～温泉街～仁田峠～妙見岳～九千部岳を通過する本格的な山岳コース。

※「島原半島要覧 2022」島原振興局に加筆

5. 公共施設

特別名勝温泉岳周辺の公共施設は島原半島の西側、国道 251 号線沿いに集中している。行政機関としては温泉街に雲仙市小浜総合支所雲仙出張所が所在するほか、千々石総合支所、小浜総合支所が所在している。また、公共施設は小学校 6 校・中学校 2 校・高等学校 1 校、スポーツ施設 9 か所、公民館 5 館、図書館 1 館である（図 2-3-5）。

島原半島全体では、半島南部に散在するキリシタン史跡および雲仙周辺に分布する植物群落をはじめ、管内の国・県指定文化財は 58 件に達し、県全体の約 11%を占めており、大野木場砂防みらい館、土石流被害家屋保存公園、有馬キリシタン遺産記念館などの公共施設が芸術文化活動や社会教育の場として利用されている。

表 2-3-6 島原半島ジオパークの見どころ（ジオサイト）

テーマ	ジオサイト	テーマ	ジオサイト
大地の 見どころ	女島の海底火山	歴史文化の 見どころ	正覚寺の石段
	妙見カルデラ		われん川
	宮崎鼻の溶岩		六角井戸
	眉山の崩壊地形		湧水庭園四明荘
	普賢岳		元平橋
	早崎半島の玄武岩露頭		南串山の棚畑
	新焼溶岩流		宝篋印塔型流死菩提供養塔
	国東半島の安山岩露頭		長浜海岸のスクイ
	尾茂浜の砂鉄		千々石の水力発電所
	岩戸山の海底火山		谷水棚田
	刈水		田代原の放牧地
	垂木台地		木津集落の石垣
	秩父が浦公園		上岳・下岳集落の棚田
	平成新山		沖田礮古戦場跡（竜造寺隆信戦死供養碑）
	両子岩		大崎鼻のスクイ
	龍石海岸の露頭		雲仙地獄
自然・動植物の 見どころ	霧氷沢		音無川
	宝原のミヤマキリシマ		小浜歴史資料館
	仁田峠のミヤマキリシマ		守山大塚古墳
	田代原のミヤマキリシマ		山田城址公園
	池の原のミヤマキリシマ		武家屋敷
ビュースポット	諏訪の池		島原城の石垣
	千々石少年自然の家		浜の川湧水
	牧場の里あづま		土石流被災家屋保存公園
	仁田峠第二展望台		白土湖
	仁田団地第一公園		旧大野木場小学校被災校舎
	布津断層		ひょうたん池公園
	深江断層		原城跡
	千々石展望台 （千々石観光センター）	島原半島 ユネスコ ジオパーク 関連施設	有馬キリシタン遺産記念館
	棚畑展望台		しまばら湧水館
	金浜断層		口之津歴史民俗資料館（分館）
	火砕流最長到達点		大野原遺跡展示館
	千本木展望所		雲仙市歴史資料館国見展示館
	花房展望所		田代原トレイルセンター
			大野木場砂防みらい館
			雲仙諏訪の池ビジターセンター
			平成新山ネイチャーセンター
			雲仙お山の情報館
			雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）
			ほっとふっと105（日本一長い足湯）